# 転生者の波乱生活

A・O・Jカタストル

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
転生者の波乱生活

【Ｎコード】
Ｎ２８７４Ｚ

【作者名】
Ａ・Ｏ・Ｊカタストル

【あらすじ】
俺は遊戯王ＧＸの世界に転生したらしい。そして俺に性格がまったく違う精霊がついた。これからの生活はどうなるのか……？シンクロありエクシーズもできれば出したいと思ってます。オリカも出ます。よろしくお願いします。

## 始まり（前書き）

０話　　今回は決闘なしです。大輝の精霊が登場します。

## 始まり

今、俺、松原大輝（まつばらひろき）は入学試験を受けるため決闘アカデミアにいる。何でも最近まで現実世界でいたのにＧＸの世界に転生したらしい。そして、今クロノスと十代が決闘している。

「フレイムウイングマンで古代の機械巨人を攻撃！！スカイスクレーパーの効果で攻撃力は１０００ポイントアップするぜ！！スカイスクレーパーシュート！！この瞬間フレイムウイングマンの効果発動！！破壊したモンスターの攻撃力分のダメージを与えるぜ！！」

「ペペロンチーノ」

「ガッチャ！！楽しい決闘だったぜ！！」

十代が勝ったみたいだな。

？？？『マスター、彼、恐ろしいドロー力を持っていますね。

？？？『大輝も決闘したら負けるかもね♪』俺のことをマスターと呼ぶおとなしい性格の薄緑の髪の少女がガスタの静寂カームで大輝と呼ぶ活発な性格の赤い髪の少女がリチュア・エミリアだ。今は俺以外には見えてないが実体化もできるらしい。しかし、この二人はいつ見てもかわいいな…それとエミリア、確かにお前には同意見かもしれない。十代のチートドローは異常だからな。

エミリア『大輝、呼ばれたよ。』試験官に呼ばれたらしい。

「ああ、いってくる。」

カーム『頑張って下さいね！！」

ステージに上がるとクロノスがいた。

「シニョール松原には

ワタクシ自らが直々に相手するノ～ネ（グフフ、圧倒的に倒して汚

名返上なノ～ネ）」

どうせクロノスのことだから十代の汚名返上とか考えているんだろ。

「では始めるノ～ネ。」

「「決闘！！」」

## 始まり（後書き）

エミリア『大輝の
精霊のリチュア・エミリアと、』カーム『ガスタの静寂カームです。
よろしくお願いします。』
エミリア『次回はクロノスとの決闘ね♪』
カーム『古代の機械は大型モンスターと伏せカードを封じる効果
が厄介ですね。マスター頑張って下さい。』

## ｖｓクロノス（前書き）

クロノスとの決闘です。シンクロ召喚の初登場です。

## ｖｓクロノス

「先行はシニョールにゆずるノ～ネ。」
「分かりました、俺のターン、ドロー！！（チッ…手札が悪いな…。）俺は魔轟神クルスを攻撃表示で召喚する。ターンエンド。」
大輝の場に悪魔の少女が現れる。

???「彼、少し迂闊ね。攻撃力が低いモンスターを攻撃表示、しかも伏せカード無し。期待外れだったかしら。」
???「さあな…だが何やら考えはありそうだ。」
???「彼は一体何がしたいんだ！？」
???「（かわいいモンスターが現れたっすね。）でも攻撃力１０００じゃあすぐにやられてしまうっすよ。」
???「何をするつもりなんだあいつ？わくわくするな～」
聞こえてますよ皆さん、上から明日香、亮、エアーマン、翔、十代だろ！！カームとエミリアも近くで応援してくれているな。まあの二人は知っていると思うがクルスを攻撃表示で出したのは手札事故とフィールドアドバンテージをとるためだ。まあ見てろ。
「ワタシのターン、ドローニョ！！（魔轟神……？見たことないカードなノ～ネ。ここは一気にいくノ～ネ。）ワタシは二重召喚を発動するノ～ネ。このカードの効果でこのターン二回通常召喚できるノ～ネ。ワタシはトロイホースを召喚する～ノ。トロイホースは地属性モンスターの生け贄召喚に使用される場合、一体で二体分として扱うことができるノ～ネ。トロイホースを生け贄に捧げ、古代の機械巨人を召喚するノ～ネ。古代の機械巨人で魔轟神クルスを攻撃！！アルティメットバウンド！！」
「この瞬間、手札のオネストの効果発動！！光属性が戦闘を行う

場合、このカードを手札から捨てることで相手モンスターの攻撃力分そのモンスターの攻撃力がアップする。「何でス～ト！」迎撃しろ！！魔轟神クルス！」

古代の機械巨人が破壊される。

古代の機械巨人

攻撃力３０００

魔轟神クルス　攻撃力４０００

クロノスＬＰ３０００

「グヌヌ……ターンエンドなノ～ネ。」

かなり悔しそうな顔をするクロノス、そりゃ切り札が攻撃力１００００のモンスターに破壊されたからな…。

「俺のターン、ドロー！！」よし、このターンで決める！！

「俺はチューナーモンスター、魔轟神レイヴン召喚！！」

「「「チューナーモンスター！？」」」

やはり知らないようだな。

「チューナーとはシンクロ召喚に必要なモンスターで所謂スピリットやトゥーンと同じような扱いと思って下さい。そしてシンクロ召喚とは制約があるものもありますが基本的にチューナーとチューナー以外のモンスターを１体以上場からリリ、生け贄にすることでそのレベルの合計と等しいシンクロモンスターをエクス、いや融合デッキから特殊召喚します。まあ融合とよく似たものだと思って下さい。」

「よく分かったノ～ネ。」

「今からそれを見せますよ。魔轟神レイヴンの効果発動！！手札を任意の枚数捨てることでその枚数×３００ポイント攻撃力がアップしレベルもあげる。俺は３枚捨てる！！さらに捨てられた暗黒界の武神ゴルド２体の効果発動！！手札からカードの効果により捨てられた場合、特殊召喚する！！レベル５の魔轟神レイヴンにレベル５のゴルドをチューニング！！混沌の光の魔王よ今ここに降臨せ

よ！！魔轟神レヴュアタン！！レヴュアタンでダイレクトアタック！！」
魔轟神レヴュアタン
攻撃力３０００
「ペペロンチーノォ！！」クロノスＬＰ０

ｓｉｄｅカーム＆ａｍｐ；エミリア
『予想通りマスターが勝ちましたね。』
『じゃあ早く大輝のところに戻りましょ。』

ｓｉｄｅ十代
「（すげえ、すげえよ。シンクロ召喚！！早くあいつと決闘したいぜ！！）」

明日香ｓｉｄｅ
「（何て奴なの！？クロノス先生に勝つなんて！！それにシンクロ召喚なんて一度もみたことないわ！！……そしてもう一つ気になるのは私の近くにいた赤い髪と緑の髪の女子。制服を着てなかったし女子寮にもそんな子いなかったわ……。他の皆は試合に夢中で気がついてなかったらしいけど…。彼女達は何者なの？）」

試験後
「お前ら実体化してただろ！！」
『『ギクッ！？』』
「皆気づいてなかったが俺には分かった。」
『『駄目ですか（なの）』』ウルウル
「涙目で見なくても多少目立ってもいいなら別に実体化くらいは

問題ないさ。」

『『マスタ〜（大輝〜）』』

そうやって抱きついてくる精霊達。実体化してるのでいろいろ当たってます。まあこうした生活も悪くないしいつも世話になっているから彼女達の要望も少しは聞いてやらないとな。

## ｖｓクロノス（後書き）

クロノスとの決闘でした。
エミリア『今回は大輝は魔轟神を使っていたわね♪』
カーム『魔轟神は手札から捨てられたときに発動するものが非常に多いため、ハンデスに強いです。また、効果の性質上、暗黒界と組ませるのもアリですね。』

次回はブルーとの決闘です。精霊の彼女達も決闘します。

## 精霊（前書き）

今回は決闘がありません。また、三幻神、三幻魔、三邪神、ネオス系、Dヒーロー、宝玉獣は使えない設定でお願いします。（地縛神は普通に使え、影響を与えないものとします。）

## 精霊

クロノスとの決闘後、結果がきた。結果は合格……それはいいんだがオシリスレッドだった。おそらくクロノスの仕業だろう。クロノスめ……。

そして今はアカデミアへの船に乗っている。皆がジロジロ俺を見ているんだが……なるほど、今の現状なら納得だ。だって俺の両脇にカームとエミリアが実体化しているんだもん。そりゃ制服も着てない女の子がいたら不思議に思うよな。

カーム『マスター、周りの視線が凄いですね、一旦カードに戻りましょうか？』

カームが聞いてきた。

エミリア『やっぱり戻ったほうがいいかもね…これ以上迷惑かけたくないし……。』

エミリアもそう言っている。そんな悲しそうな顔するなよ。

「別にお前達がいたけりゃいればいいさ。俺は問題ないよ。」

カーム『マスター／／／／／』

エミリア『大輝／／／／／』

「カーム、エミリア／／／／／」

やべ、こいつらかわいすぎる！！

？？？「お～い！お前だよな魔轟神とかいうモンスターを使ってクロノス先生に勝ったのは！！」

出たよ十代！！十代～空気読んでくれ！！せっかくいいムードだったのに。

「ああ、そうだが、お前は十代だよな！？俺は松原大輝だ。大輝と呼んでくれ！！」

「知っていたのか～！宜しくな！！そっちの女の子達は？」

「俺の精霊だ。実体化している。」
カーム『私はガスタの静寂カームです　。カームと呼んで下さい。宜しくお願いします。』
『私はリチュア・エミリアよ♪エミリアでいいわ！！宜しくね！！』
「おう、二人とも宜しくな！！さて、大輝、決闘しようぜ！」
どうしてそうなる！？なんで自己紹介の後の第一声がそれなんだよ！！どんだけ決闘バカなんだ！！
「悪いな、今疲れていてな。また後でやろうぜ！！」
「チェ！分かったよ。絶対だぜ！！」
そうこうしているうちに島についた。そして寮についたのだが……ボロい、ボロすぎる！！こんなところで生活しようというのか！！
「じゃあな、大輝！後で決闘な！！」
「ああ、分かった。」
こいつは決闘さえあれば疲れも忘れるのか！？
仕方ない、俺達も休むとするか。

しばらく休んでいたら予想通り十代がやってきた。
「大輝！！決闘やろうぜ！！」
はあ、分かったよ。まあ約束したしな。
「よし、決闘場いくぞ十代！！」
カーム『マスター、私達はもう少し休んでますね。』
エミリア『留守番は任せて！』
「ああ、行ってくる。』

決闘場についたはいいが、なんかブルーの連中が威張り散らして

いる。　「邪魔だ邪魔だ！！ここはお前達のようなドロップアウトが使う場所じゃないんだよ！！」
「ブルーだからって威張るなよ…。威張ることしかできないのか！？」
「何だと！？貴様、決闘だ！！格の違いを教えてやる！！」
何で十代と決闘しにきたのにこいつと決闘しなけりゃならんのだ。仕方ない、やってやる。そして構えた時、
？？？「お前達、何をしている！？」
万丈目か。
「万丈目さん、こいつらが勝手に使おうとしていたんスよ！！」
ブルー生徒が説明する。
「何！？だったらだったら決闘し
？？？「あなた達、ここで何をしているの！？」
天城院君！？」
万丈目「いやあ、こいつらにブルーの実力を見せてやろうと思ってね…」　「もうすぐ歓迎会が始まるわよ。早く戻ったほうがいいわ。」
万丈目は渋々取巻きを連れて帰った。
「あなた達も彼らに関わらないほうがいいわ。彼らの実力は本物よ。」
「チッ、せっかく新デッキの実験台になってもらおうと思ったのに。十代、帰るぞ！！」

帰り道
「チェ、決闘したかったな～」
安心して下さい。今夜できるから。
？？？「アニキ！！どこに行っていたんスか？」
この水色は丸藤翔か。
「おう、翔！！ちょっと呼び出し喰らってな。紹介するぜ、大輝、

友達の翔だ。」
「松原大輝だ、宜しくな。」
「あのシンクロ召喚とかいう不思議なモンスターを使った人ッスね。宜しくッス！！」
こうして翔にシンクロ召喚について説明しながら帰った。

寮
エミリア『ねぇ大輝、私達も決闘していいかな？』
突然そんなこという精霊達。答えは決まっている。
「ああ、別に構わない。」
俺は部屋にある大きな段ボール箱を持ってきた。
「やり方はいつも見ていたから知っているだろ。必要ならアドバイスをやる。」

カーム『マスター、ここはどんなモンスターを入れたらいいでしょうか。』
「ここは墓地絶やしができるこいつがオススメだな。あとはリクルーターも入れておけばいいかも。」
エミリア『ねぇ、大輝…魔法カードなんだけど…。』
「相手を弱体化させるならこのカード、自分を強化するならこのカードはどうだ！？」
そうしてカームとエミリアのデッキは完成した。
「よし、今から二人で決闘…（ppppp！！）メールだな。」

（やあ、ドロップアウトボーイ！シンクロモンスターとやらをかけてアンティルールで勝負といこうか。十代と明日の朝決闘場に来い！！）

万丈目だな。まてよ……
「カーム、エミリア、明日決闘万丈目達と決闘するんだが来るか！？」
カーム『行きます。』
エミリア『デッキを試したいしね！！』
よし、万丈目に取り巻きを後二人用意しろと送っておいた。
あとは…
「大輝！！いるか？」
十代が来たか。さっき呼び出ししておいたのだ。
「どうしたんだ？呼び出したりして。」
「万丈目からメールがきただろ？」
十代はうなずく。
「その前に十代に渡しておきたいものがあってな、こいつらはお前なら使いこなせるだろう。」
俺は十代にエアーマン、オーシャン、フォレストマン、ザ・ヒート、ジ・アース、ガイア、シャイニング、ｚｅｒｏ、ｇｒｅａｔｔｏｒｎａｄｏ
、ノヴァマスターを三枚づつ渡した。
「すげえ、ありがとうな！！大切に使うな！！」
「カームとエミリアも決闘するようになったんだ。デッキ調整もかねて練習相手になってやってくれ。」
「おう、任せとけ！！決闘だ！！」
カーム『負けませんよ！！』
エミリア『負けないわよ！！』
こうして４人は決闘を楽しんだ。

## 精霊（後書き）

次回万丈目達との決闘です。
カーム『ついに私達も決闘できますね。』
エミリア『これも大輝のおかげだね！！』
ちなみに彼女達にもいくつかのデッキを持たせたいと思います。

## キャラクター紹介（前書き）

今回はキャラ紹介です。

## キャラクター紹介

松原大輝　　（まつばらひろき）
１５歳

現実世界でカードショップに行っているときに転生してしまった。薄い茶髪で中々のイケメン。道に落ちていたガスタの静寂カームのカードとリチュア・エミリアのカードを引き取ったため、精霊がついた。
精霊達に好意を持たれているが、大輝も彼女達に好意を持っている！？

カーム
（ガスタの静寂カーム）
１５歳

リチュア・エミリアとともに道に捨てられていたところを大輝に引き取られた。緑色のポニーテールのおとなしい性格で常に敬語。大輝に対して好意を抱いている。最近実体化している。エミリアとは親友である。

エミリア
（リチュア・エミリア）
１５歳

ガスタの静寂カームとともに道に捨てられていたところを大輝に引き取られた。赤いツインテールに黒の魔法帽子をかぶっている。

活発な性格でカームとは正反対である。カーム同様、大輝に好意を抱いている。カームとは親友である。

## キャラクター紹介（後書き）

次回はｖｓ万丈目＆ａｍｐ；ブルーです。キャラごとに章を分けます。

## ｖｓ万丈目一味　（前編）　（前書き）

今回は万丈目一味と精霊達が戦います。

## ｖｓ万丈目一味　（前編）

翌朝

「来たな！！ドロップアウトボーイ！！」
万丈目と取り巻きが三人いた。
「逃げなかったのは誉めてやる。さあ決闘だ。その前に松原大輝！！そこの小娘共は誰だ！？制服を着てないじゃないか！！」
エミリア『誰が小娘よ！！』
「こいつらは俺の精霊なんでね。馬鹿にするのは止めてもらおうか。」
「ふん、まあいい。お前達、相手を選べ。」
取り巻きＡ「万丈目さん、俺はドロップアウトボーイとやります。」
取り巻きＡ、かわいそうに。チートドローを拝めるぞ。
取り巻きＢ「なら俺は緑髪の女をやります！！」
取り巻きＣ「なら俺は赤髪の女で。」
取り巻きＢ、Ｃに指名されるカームとエミリア。
「……俺の相手は万丈目か。」
「ああ、ブルーにたてついたことを後悔させてやる！！」
「決闘！！」

Ｓｉｄｅカーム
『私のターン、ドローします。』
この手札は……私の勝ちですね。
『私は苦渋の選択を発動します。私はデッキからカードを５枚選択します。私はあなたが選んだ１枚を手札に加え、残りを墓地に送ります。私はダークジェロイド、ニュート、アーマード・ビー、キラー・トマト、ドラゴンフライを選択します。』

「ふん、そんな使えないカード何の役に立つ！！キラー・トマトを加えろ。」
馬鹿ですね。墓地絶やしを役に立たないとは。ブルーが聞いて呆れます。
『私は今墓地に送ったニュートとダークジェロイドを除外してダーク・シムルグを手札から特殊召喚します。』
「何だと！？いきなり上級モンスターを特殊召喚　だと！？」
『さらに、キラー・トマトを守備表示で召喚します。カードを２枚伏せターンエンドです。』
「俺のターン、くくく、俺はゴブリン突撃部隊を召喚！！さらに装備魔法デーモンの斧を装備……何故発動しない！？」
『私はあなたのドローフェイズに魔封じの芳香と生け贄封じの仮面を発動させました。これらのカードによって、お互いに魔法カードをセットしてから発動しなければなく、生け贄ができなくなりました。さらにダーク・シムルグの効果は相手はカードをセットできなくなります。』
「何だと！？それじゃあ俺は…」
『はい、事実上魔法罠カードは発動できませんね。』
「そんな…くそ、俺はゴブリン突撃部隊を守備表示にしてターンエンドだ。」
『私のターン、ドローします。私は私はニュートを攻撃表示で召喚します。キラー・トマトを攻撃表示にしゴブリン突撃部隊を攻撃！ダーク・シムルグとニュートでダイレクトアタックです！！』
「うわぁぁぁ！！」
取り巻きＢ　ＬＰ０
『私の勝ちですね。』

Ｓｉｄｅ大輝
一回戦は快勝だな。あいつ弱すぎだろ。

？？？「成る程、ダーク・シムルグでセットを封じ、魔封じの芳香と生け贄封じの仮面で完全にロックする…恐ろしいコンボだ」
エアーマン！？いつの間にいたんだ！？
「失礼なことを言われた気がするが…紹介が遅れたな。俺は三沢大地だ。あの娘達は？」
「俺は松原大輝だ。あいつらは俺の精霊だが実体化している。仲良くしてやってくれ。」
そうこう話しているうちにカームがやってきた。顔を真っ赤にして何か言いたげそうだ。
カーム『あ、あのマスター…勝ったので、頭なでなでして下さい／／』
「おう、よく頑張ったな、カーム。」ナデナデ
カーム『プシュー／／／／』
顔が真っ赤を通り越している。三沢はきを遣ったのかどっか行っていた。
エミリア『あー！！カームずるいー！！』
「エミリアも勝ったら何かしてやるよ。」
『本当！？なら取り巻きC！！さっさと決闘よ！！』
何かとんでもないことさせられそうなきがする。

Ｓｉｄｅエミリア
「俺のターン、ハハハ、俺は神獣王バルバロスを妥協召喚する！！効果で攻撃力は１９００になるがな。カードを1枚伏せてターンエンドだ。」
『私のターン、「俺はスキルドレインを発動！！１０００ライフ払い、場の効果モンスターの効果は全て無効になる。バルバロスの攻撃力は３０００に戻る！！」サイクロンを発動！！スキルドレインを破壊するわ！！』
「何！？だがバルバロスは３０００のままだぞ。」

『問題ないわ！！私は二重召喚を発動！！ＫＡ－２デス・シザースを召喚し、生け贄に捧げニードルバンカーを召喚！！』
私の場に青い機械の蠍が現れ、それが少しサイズの大きい赤い機械の蠍に進化した。
「フハハハ！！レベル５で攻撃力１７００とは貧弱にも程がある な！！バルバロスの敵ではない。」
馬鹿だ。攻撃力だけが全てではないのに。ニードルバンカーも攻撃力だけなら低いかもしれない。だが、ライフポイント４０００の世界ではこの効果は強力極まりない。私が攻撃力だけが全てではないこと教えてあげるわ。
『カードを１枚伏せターンエンドよ。』
「俺のターン、ドロー！！チッ、バトルだ。バルバロス、そのモンスターに攻撃しろ！！」
『この瞬間速攻魔法リミッター解除！！効果により自分の機械族モンスターの攻撃力を倍にするわ！！』

ニードルバンカー　攻撃力３４００
「だ、だがな、４００ダメージしか喰らわないぜ。ニードルバンカーも破壊されるぜ。」
『甘いのよ！！ニードルバンカーは破壊したモンスターのレベル×５００ダメージを与える。この意味分かるわね。』
「バルバロスはレベル８……まさか！？」
『ええ、あなたの負けね。迎撃しなさい！！ニードルバンカー！！』
「ぐあああああ！！」
取り巻きＣ　ＬＰ０

Ｓｉｄｅ大輝
エミリアも勝ったか。本当に弱すぎるな。エミリアがやってきて

きた　『あ、あの…大輝…勝ったよ！！』
「ああ、よくやったな！！」
ナデナデ
『大輝／／／／…』
「カームもエミリアも初めてにしてはよくやった。さすがは俺の精霊だけあるな。まあ相手が弱すぎただけかもしれないが…」
『マスター／／／／（大輝／／／／）』
あれこれしているうちに十代が始めようとしていた。

## ｖｓ万丈目一味　（前編）　（後書き）

カーム『今回は私達の初決闘でしたね。』
エミリア『今回あなたが使用したデッキはアロマシムルグ、私が使用したデッキはシザースバンカーね。』
カーム『アロマシムルグはダーク・シムルグと魔封じの芳香により相手の魔法罠を完全に封じます。シザースバンカーはニードルバンカーとシザースバンカーの低い攻撃力を魔法罠で補い強力効果をフルに生かします。どちらもＬＰ４０００のこの世界では相手を圧倒できますね。』
次回は十代と大輝が戦います。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2874z/

転生者の波乱生活

2011年12月17日01時04分発行